

今日のトピック 米国経済と長期金利の見通し (2018年3月)

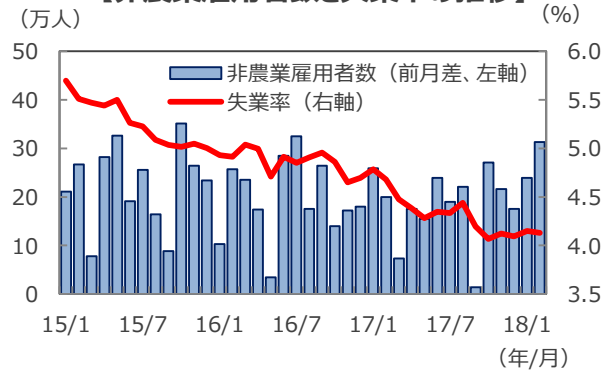
財政拡大が米経済を押し上げ、長期金利には上昇圧力

ポイント1 足元の景気は鈍化

天候要因による一時的なもの

- アトランタ地区連邦準備銀行が開発した経済モデルによれば、3月23日までに公表された経済指標をもとに推計した18年1-3月期の米実質GDP成長率は、前期比年率+1.8%にとどまりました。
- 成長率の下振れは、1月の大寒波の影響や税還付の遅れといった一時的な要因によるところが大きいと見られます。米国経済が変調をきたしたわけではありません。
- 実際、労働市場は好調を維持しています。2月の非農業雇用者数は前月に比べ+31.3万人と大幅に増加し、失業率は4.1%と低い水準になりました。

【非農業雇用者数と失業率の推移】



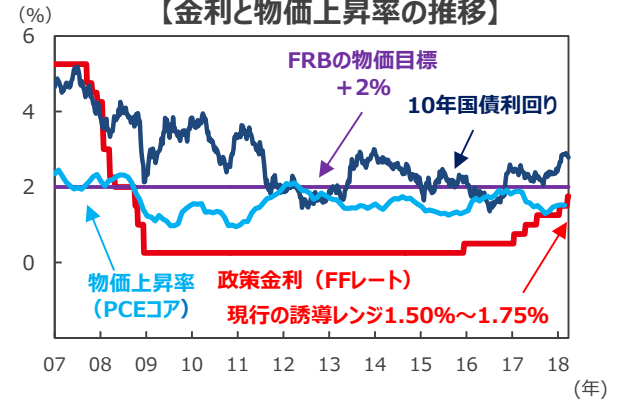
(注) データは2015年1月～2018年2月。
(出所) 米労働省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 財政拡大で景気再加速へ

物価上昇率は低い水準で安定

- 雇用が順調に伸びていることに加え、減税や歳出拡大の効果も表面化してくるから、米景気は4-6月期辺りから再び上向き見通しです。
- 一方、物価は落ち着いています。2月の消費者物価のうち食品・エネルギーを除いたコア指数の上昇率は前年同月比+1.8%と、米連邦準備制度理事会 (FRB) の目標値を引き続き下回りました。

【金利と物価上昇率の推移】



(注1) FFレイトと10年国債利回りは2007年1月5日～2018年3月28日。週次データ。2008年12月以降のFFレイトは誘導レンジの上限を表示。
(注2) 物価上昇率は2007年1月～2018年1月。PCE (個人消費支出) コア物価指数の前年同月比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 長期金利は徐々に上昇へ

- FRBは景気、雇用の順調な拡大を背景に、3月20日～21日に開催した米連邦公開市場委員会 (FOMC) で、政策金利の誘導レンジを0.25%引き上げ、1.50%～1.75%とすることを全会一致で決定しました。
- FRBは今後も利上げを継続すると予想されます。財政支出拡大に伴う国債の増発等も見込まれることから、米長期金利には上昇圧力がかかりそうです。もともと、物価上昇率が低い水準にあるため、金利の上昇は緩やかなものにとどまると考えられます。

ここもチェック! 2018年3月22日 緩和解除を進める米国の金融政策 (2018年3月)
2018年3月12日 「適温」状態が続く米国の雇用統計 (2018年2月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。